

安全な処理に向けて 豊里で最終処分場落成式

「登米市一般廃棄物第2最終処分場落成式」は12月17日、豊里町笑沢地内の同処分場で開かれ、市議会議員や地元行政区長など関係者約70人が出席しました。

落成式で布施孝尚市長は「地元住民の皆さんのご理解、ご協力に感謝します。処分場の完成に安心せず、ごみの処分量を減らし施設の延命化を図り、安全な処理に努めていきます」とあいさつ。出席者は、テープカットの後、施設を見学しました。

第2最終処分場は、総面積約3万5千平方メートル、埋め立て容量約10万立方メートルで、総工費は約25億4千万円。本年1月から稼働を開始しています。



処分場には、埋め立て灰などに浸透した雨水などを無害化する処理施設が併設され、環境の保全に万全を期しています。

全国のはっと味競う 中江公園ではっとフェス

第13回「日本一はっとフェスティバル」(実行委主催)は12月4日、迫中江中央公園で開かれ、市内外から約2万8千人が訪れました。

岐阜県岐阜市など、全国からおらがまちの自慢の「はっと」を提供する30店舗が出店し、来場者らは舌鼓を打ちました。購入者の割りばし投票で決まる「はっと大賞」には、本市の伊豆沼農産の「赤豚カレーはっと」が選ばれました。

後藤薫さん=迫町大綱=は「夫、子どもと来ました。魚介風味の『海鮮はっと』がおいしかったです」と顔をほころばせていました。



同日は「かっぱハーフマラソン」も開かれ、走り終えたランナーたちが多数訪れ、全国のはっとの味を楽しんでいました。

皆に広がり市民活動 イオンで市民活動フェス

「市民活動フェス2016」(NPO法人とめ市民活動フォーラム主催)は12月18日、イオンタウン佐沼店で開かれ、37の市民団体が参加しました。

市民活動フェスは、市内の市民団体の活動内容を広く市民に知ってもらい、団体同士の横のつながりを強めることを目的に開催。団体の活動紹介やパネルディスカッションが催されたほか、料理を提供するブースやカフェコーナーなどが設けられました。

フットマッサージを体験した大友とも子さん=豊里町浦軒=は「マッサージの間、世間話もできて、心も体もすっきりしました」と満足げでした。



地域でのボランティアなども、市民活動の一つ。皆さんも行動に移してみませんか。

未来への夢を新聞に 中田で未来新聞コン開催

「第9回子どもたちが考える登米市の未来新聞コンクール表彰式」は12月4日、中田農村環境改善センターで開かれました。

コンクールのテーマは「住みたいまち、笑顔のまち」で、小学生の部8校52作品、中学生の部4校18作品が応募され、児童や生徒は自分たちの作った新聞を壇上で説明しました。最優秀賞には、石森小6年1組「かがやけ未来の希望の花」チームと新田中1年1組「NEW PADDY」チームが選ばれました。高橋和さん(佐沼中1年)は「読む人に興味を持ってもらえる内容にするのが難しかったです」と作成の苦労を語りました。



コンクールは、まちづくりに興味を深めることを目的に開催。子どもならではの柔軟な発想で、未来の登米市を発表しました。

ダンスで交流深める 米山でダンスパラダイス

「ダンスパラダイス2016inとめ」(県障害者福祉センター主催)は12月23日、中津山公民館で開かれ、障がい者やその家族など約100人が参加し、ダンスパーティーを楽しみました。

ダンスパラダイスは、音楽、ダンスを通して障がい者や家族同士が交流する場を作ろうと、毎年県内各地で開催されています。本市内で開かれるのは初めて。

参加者は、サンタクローズやお姫さまなどの衣装をまとい、ディスコ音楽などのリズムに乗り軽快なステップを披露。後藤成未さんは「多くの人と交流できて楽しい。また参加したいです」と話していました。



参加者はダンスだけではなく、飲み物を飲んだり、お菓子を食べたりしながら、交流を深めていました。

県品評会で快挙達成 2年連続で最高賞を受賞

平成28年度県農林産物品評会(県主催)で、高橋龍朗さん=迫町板橋=が栽培した「生シイタケ」が林産物部門で最高賞の農林水産大臣賞を受賞し12月6日、市役所へ受賞報告に訪れました。

審査では高い栽培技術と品質の良さが評価され、父龍一さんが受賞した昨年に続き、2年連続で最高賞を受賞しました。高橋さんは「より良いものを消費者に届けようと努力した結果が、受賞につながり大変うれしく思っています。受賞に浮かれず、これまで以上に、高い品質のシイタケを皆さんに届けられるよう精進します」と気持ちを新たにしていました。



高橋さんは親子2代で3回目の農林水産大臣賞受賞。高橋さん親子が栽培するシイタケは市場でも高い評価を受けています。